

## ■ アメリカノウゼンカズラ・・・



「アメリカノウゼンカズラ」は、かずらの名が示すごとく蔓性の植物で、集会所の南側支柱及び光六小境界のフェンスにまとわりつきながら、たくましく育っています。夏の眩しい青空がとてもよく似合う植物です。

晩夏の季語に「のせう」「のしょう」「凌霄花」がありますが、これらは「ノウゼンカズラ」のことです。古名の「のせう」が変化して「のうぜん」になったとも、「凌霄」の音読み「りょうしょう」が変じて「のしょう」になったとも言われます。「凌霄花」は漢名からで、「凌」は”しのぐ”、「霄」は”そら”の意味で、つるが木にまといつき天空を凌ぐほど高く登るところからこの名がついたようです。はっきりしていることは、平安時代に編纂された日本最古の薬物辞典である「本草和名（ほんぞうわみょう）」に「乃宇世宇加都良（ノウショウカズラ）」と記されていることで、後にこれが「ノウゼン」に転訛したと思われます。

「ノウゼンカズラ」が中国原産に対して、「アメリカ～」は冠通り北米原産ですが同じ仲間です。ただ、花の大きさは一回り小さくラッパのような形をしていますので、英名は「トランペット・フラワー」。だからでしょう、花言葉は「栄光・名声」です。蔓から気根を出し固着するのも特徴です。長期修繕に関しては無粋な植物ということになります。